

■ 全体講評

午後 I は、3 問中 2 問の選択になります。問 1 (新生産管理システム導入企画の妥当性の監査) は、開発稟議書など企画段階のプロセスについての設問です。問 2 (システム開発プロジェクトを統括する PMO 組織の有効性の監査) は、プロジェクトマネジメントの組織の業務全般に関する有効性を監査します。問 3 (バックアップセンタ導入計画の監査) は、要求仕様書などの内容を監査することについての設問です。それぞれ業種やテーマが広範囲にまたがって出題されています。

問題によって正答率に違いがあります。自分の専門にこだわらずに、解答しやすい問題を選んでください。例えば、問 2 は比較的やさしく正答率の高い問題で満点を取る人が多い状況でした。一方、問 1、問 3 は、解釈に迷う解答が多く、なかなか高得点を取るのには難しい状況でした。試験では問題を読んですばやく難易度を推定し、問題を選択する適切な判断が望まれます。

それぞれ長文の問題を読んで、多くの設問に答えなければならないので、時間が足りなくなる人が多いです。短時間で解答が簡単な問題を選ぶには、設問を読んで「何を要求されているか」をすばやく理解することが重要です。そのためには、いきなり問題文を読むのではなく、まず設問から読むことが大切です。設問を読みながらポイントとなるところにアンダーラインを引いて、設問内容を意識しながら問題文を読むことが重要です。

設問で何が問われているかを必ず確認し、ポイントとなる内容を分かりやすく記述することが必要です。今回の公開模試でも、設問で問われていること以外の内容を答えているものが多く見受けられました。これらの点は特に注意しましょう。

例えば問 3 の設問 2 では「リスク」を書けとあります。ここで現状の問題点や改善提案を挙げるのは、設問の意味を理解していない解答です。

試験当日は、集中力、精神力、体力の勝負になるので、最後まであきらめず、必ず合格するという強い意識をもって臨むようにしましょう。

問1 新生産管理システム導入企画の妥当性の監査

【採点基準】

[設問1]

(1)(2)それぞれ解答例どおりであれば各 7 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問2]

①②とも、解答例どおりの表現であればそれぞれ 6 点。納期の短縮と在庫金額の減少の表現が必要です。それ以外は、基本的に 0 点。

[設問3]

解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点。その他は、基本的に 0 点。

[設問4]

(1)(2)それぞれ解答例どおりであれば各 8 点。その他は、基本的に 0 点。

【講評】

開発稟議書など企画段階のプロセスについての設問です。

設問 1 (1)では、費用対効果を審議するのに、「システム化効果が不十分であるのに承認された」という点を指摘すればよいでしょう。「効果が開発予算を下回った」という表現でもよいでしょう。

(2)は、システム化効果を判断するためには「定量的な効果だけでなく、定性的な効果も必要」であることが正解になります。定量的という用語に対応して定性的効果があります。キーワード「定性的」という用語を使わない解答は 0 点です。材料在庫の圧縮など定量的な効果を細分化しての解答は 0 点です。

設問 2 では、新生産計画の導入目的・機能に対応した効果測定指標 (KPI) を答えます。導入目的は、納期の短縮と材料在庫の圧縮ですから、KPI はそれぞれ①納期の短縮日数・短縮率、及び②材料在庫の合計金額・数量の減少・縮小率を答えます。単なる「納期」や「在庫率」という指標を挙げることは、解答になりません。減少する内容の表現でなければ不正解です。この設問は、ほぼ全員が正解でした。

設問 3 は、情報化委員会がきちんと役割を果たしているかどうかを確かめるための手続です。「ドキュメントの内容の妥当性が十分に検討されていることを議事録等で確認する」ことです。ここでは単に「ドキュメントの内容を確認する」ではなく「ドキュメントの内容の検討がされていることの確認」です。ここまで記入しない解答は 0 点です。確認する方法は、委員へのインタビューでも、委員会からの指摘の有無の確認でもよいと思います。ただし「承認印があることを確認する」は、少し的外れになるので不正解です。

設問 4 は、フィット・アンド・ギャップ分析の妥当性の検討です。

(1)は、監査手続をどう改善するかについての設問です。

模範解答は「単に適合項目数で判断するのではなく、各項目の重要度を考慮した上で適合度を評価する」です。項目の中にも重要な項目、優先的な項目があるので、「重要度を考え、重みづけをする」という表現があれば正解です。監査手続の改善ですので、個別の項目を挙げる必要はありません。ユーザニーズとの適合性、予算・コストとの照合などは0点です。

(2)の項目の網羅性を確保する監査手続としての模範解答は「フィット・アンド・ギャップ分析に要件定義書の各要件に対応する項目があることを確認する」です。ここでのキーワードは「要件定義書」です。要件定義書の代わりに「ユーザニーズを充足する」や「ユーザからの要望事項を記録したもの」などの表現は不適切です。やはり情報処理技術者試験なのでキーワードとなる「要件定義書」くらいは、常に書けるようにしましょう。

その他「カスタマイズで対応していることを確認する」なども不的確な解答で0点です。

問2 システム開発プロジェクトを統括する PMO 組織の有効性の監査

【採点基準】

〔設問1〕

(1) 問題点、精度低下の原因について、それぞれ解答例どおりであれば各8点

(2) 問題点、改善策について、それぞれ解答例どおりであれば6点と8点。その他は、基本的に0点。

〔設問2〕

解答例どおりであれば10点。その他は、基本的に0点。

〔設問3〕

適切な内容が正しく書けていれば10点、その他は、基本的に0点。

【講評】

PMOはプロジェクトマネジメントオフィスのことで、全社的なプロジェクトマネジメント手法の標準化、品質管理、人材育成などを受ける部署です。この組織の業務全般に関する有効性を監査します。

本文の中で、解答につながる記述を見つければ、解答は簡単に書けるので、満点を取る人が多かった設問です。

設問1は、PMOの進捗状況報告に関する設問です。

(1)で、進捗状況報告の問題点として挙げるのは「進捗遅れ日数の算定方法の基準がなく、各プロジェクトに任せていること」、報告内容の精度低下の原因は「進捗遅れ日数がプロジェクトマネージャの判断で操作される可能性がある」こととなっています。

模範解答はこのような内容ですが、これらの内容は類似しており、「算定基準がない」ことは、問題点でもあり精度低下の原因でもあり、どちらも間違いとは言えないので、正解にしました。精度低下の原因として「統一の尺度がない、遅れの内容・規模・工数などが分からない」という解答もあり得るため、正解としました。

ただし、問題点として「PMO提出資料だけでしか確認していないから」、「月1回の報告では確認できないから」、「進捗遅れの日数だけの報告であるから」という解答は、不正解です。同様に、「遅れの原因究明と対策がないから」という解答も、精度低下の原因という設問との関連性が低いため、0点です。

(2)は、報告に関する業務手順の問題点として「PMO組織が進捗報告の適切性を確認しないで経営層に報告している」こと、改善策として「各プロジェクトから提出された進捗報告内容を客観的な事実で確認する」ことが模範解答です。

問題点の指摘は、ほぼ全員が正解を書いています。改善策はかなりばらつきがあります。「進捗報告内容の事実確認をする」ことが大事なので、「作業内容や工数を確認する」などは正解になりますが、それ以外の解答は不正解です。例えば、「プロジェクトから原因を報告させる」、「対策を助言する」、「リカバリプランを提出させる」などの解答は、的外れです。また「適切性を確認する」という解答は、文中の文言の繰返しに過ぎず0点です。正答率の低い設問でした。

設問2は、PMOの機能として、バグの発見遅れを防止する策を問う設問です。

「テスト計画時にテスト項目のレビューを行って結果を報告させる」ことが模範解答ですが、このように解答する人は少なく、ほとんどが不正解でした。多かった不正解は、「計画テスト項目の網羅率と開発規模のテスト項目数」など、カバレッジや網羅性を記したのですが、本文中に「テスト計画にテスト項目の網羅性の報告を受ける」とありますので、カバレッジ(網羅性)についての解答を求めているのではないことが分かります。「テスト計画の妥当性を見る」だけしか書いていない場合は、半分正解とします。非常に正答率が低い設問でした。

設問3は、工数の不適切な報告内容として、「Xプロジェクトの作業として報告すべき工数が共通業務の実績として報告されている」が正解です。共通業務として、研修や自己啓発などを挙げている場合も正解です。

簡単で、解答に迷うことが少なかったようで、非常に正答率の高い設問でした。

問3 バックアップセンタ導入計画の監査

【採点基準】

【設問1】

監査手続として、解答例と同様の場合 10 点。その他は、基本的に 0 点。

【設問2】

(1) バックアップに関するリスクとして解答例と同様の場合 10 点。

(2) 二重稼働の発生するケースについて、解答例と同様の場合 10 点。

その他は、基本的に 0 点。

【設問3】

テスト計画の改善策について、適切な解答の場合 10 点。その他は、基本的に 0 点。

【設問4】

選定基準の適切でない理由について解答例と同様の場合 10 点。その他は、基本的に 0 点。

【講評】

要求仕様書などの内容を監査することについての設問です。

設問 1 は、「BC に関する要求仕様書」に関する監査手続を指摘すればよいでしょう。正解は「BCP 計画書と BC に関する要求仕様書を査閲して、要求事項の対応関係を確認する」となります。

「要求仕様書」がキーワードになります。この用語がなければ 0 点です。簡単な設問なので、BCP 計画書と BC に関する要求仕様書のどちらか一方しか書いていなければ、0 点になります。

設問 2 (1)では、バックアップに関してデータ消失が発生するリスクを考えます。解答は「日次バックアップ後被災までの間に発生した主要トランザクション情報が消失する」です。「トランザクション情報の消失」がキーワードであり、マスタデータやバックアップデータの消失ではありません。不正解になった解答として「バックアップ中に発生したトランザクションデータの消失」があります。文中に「整合性は確保されるような設計になっている」との記述があるので、不正解になります。「バックアップ後のデータ消失」を教えてください。

(2)では、DC サーバと BC サーバの二重稼働が発生するケースについて考えます。そのような事態が発生するのは「現 DC と BC 間の通信が途絶えて現 DC が正常稼働しているも BC 側が稼働するケース」となります。

この解答のポイントとしては、通信・ネットワークの問題と正しくとらえられていれば、正解です。それ以外は不正解になりますが、多かった不正解として「DC と

BC が同時に復旧したケース」「切替えに時間がかかるケース」などがありました。いずれも 0 点です。

設問 3 は、テスト計画の改善策として「実機での自動切換えと切戻しのテストを稼働後もメンテナンス日などに実施する」となります。「稼働後」に実際に自動切換えと切戻しのテストを行うことが、正解になります。その場合も、具体的にメンテナンス日などと時期を書いてあると正解になります。なお、「DC と BC のデータ整合性をテストする」などの解答は不適切です。正解者の少ない設問でした。

設問 4 は、候補地選定基準の不適切な理由を答えます。解答は「広域災害が発生した場合にこの距離条件でも両 DC が同時に被災する可能性があるから」となります。

100km という距離について、広域災害に対応できるかどうかを考え、不適切とします。ほとんどの方は正解を書いています。ここで、「ネットワーク環境の関連性を考慮していない」という解答もありましたが、距離条件の不備の方が解答としてふさわしいといえます。

以上